

医療法人創起会くまもと森都総合病院

院長 鈴 島 仁

民間病院の舵取りを
任されました

令和四年四月一日付けで熊本市中央区にあります医療法人くまもと森都総合病院の院長を拝命しました鈴島仁です。何卒よろしく願いたします。

私は昭和六十一年に熊本大学医学部を卒業し、当時の高月清教授の第二内科（現在の血液・膠原病・感染症内科）に入局しました。大学病院にて研修後、熊本地域医療センター、蘇陽病院に勤務させていただいた後、大学院に進んで高月清教授の指導の下、ATLの研究を行いました。米国留学も経験し研究を続ける道もあったのですが、帰国

後に臨床の現場勤務を希望して、平成九年に当時のNTT九州病院に血液内科医として赴任しました。その後は図らずも二十五年間勤務し続け、血液内科部長、内科診療部長、副院長を経て院長に至りました。

当院の歴史を簡単に紹介させていただきますと、大正十一年に熊本市昇町で熊本通信診療所として開設し、昨百年を迎えました。昭和十七年に熊本通信病院に昇格し昭和五十六年に保険医療機関として一般開放されています。NTTの民営化に伴い平成元年にNTT九州病院と名称を変更。平成二十三年には企業立病院から独立して医療法人創起会に移行し平成二十四年に名称もくまもと森都総合病院へ変更しています。平成二十三年に熊本県指定がん診療連携拠点病院となり、乳癌、血液癌、消化器癌に特化したがん診療を現在も続けています。私が入職してから運営母体の変更、名称の変更が目

まぐるしく行われ、なかなか大変な時期を過ごしました。さらに平成二十八年の熊本大地震で新屋敷の旧病院が大きな被害を受け、耐震性の問題もありません。診療継続ができない時期が続きましたが、当初の予定通り平成二十九年四月に現在の大江に新病院として移転開院が叶いました。令和三年からは新型コロナウイルスの入院受け入れも行っていきますが、私の副院長時代からこのコロナ医療にずっと振り回されてばかりです。

私が院長に就任した令和四年以降は、日本の医療界に於いても将来構想に関する課題が山積みとなっており、令和七年の医療需要と病床の必要量を考える地域医療構想調整会議は遅々として進んでいません。特に中小病院は病院の方向性を考え方針を作成しなければいけない時期となっているにもかかわらず、現在は急性期一般と慢性期（地域包括ケア病棟及び緩和病棟）診療を主体としていますが、五年後、十年後に熊本市がどのような医療提供体制になっているのかを想像するのは困難な状況です。また来年に迫った医師の働き方改革に関しては、二次救急を担当している当院は宿日直許可がとれ

ておらず苦戦しています。救急体制は極力維持したい。しかし、勤務医の長時間労働は是正しなければならぬという相反する課題を解決すべく、現在、医療勤務環境改善支援センターと協力して対応中です。

いずれにしても私の役割は、この荒波に翻弄されるこれからの医療界で、職員の雇用を守るためにもこの民間病院の舵取りを行っていかなくてはならないという厳しいものであり、肥後医育振興会の皆様方には今後何かとご指導を仰ぐ場面が多くなると思われませんが、何卒ご協力ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

